

第3節

高校生

1. 高校1年生

高校入学とともに、遊び場などの行動範囲が広がる。友だちの数も増え、携帯電話を友だちとのメールに活用している。学習時間は二極分化の傾向を示し、学習しない生徒と長時間学習する生徒の両端が増える。親とのかかわりは、関係の悪かった中学時代から改善する様子がみられる。

◆生活時間やメディア接触について

高校入学も、生活変化の大きな節目である。就寝時刻は中3生と変わらないが、起床時刻が30分以上早まって、平均の睡眠時間は6時間15分である。これは、通学時間が中学生よりも長くなるためであろう。

遊び場についても、「自分の家」（「よく遊ぶ」＋「ときどき遊ぶ」、中3生54.9%→高1生40.8%）、「友だちの家」（同42.0%→22.8%）、「公園や広場など」（同21.3%→10.0%）といった身近な場所で遊ぶことが少なくなる。

テレビの視聴時間やテレビゲームをする時間は中3生からさらに減少するが、メディア活用で特徴的なのは、携帯電話の所有率の上昇である。高1生では92.5%が持っていて、中3生から38.5ポイントも増える。その利用の多くが「友だちに送るメール」で、所有する高1生の27.4%が1日に「21回以上」メールを送ると回答しているが、その用途で「ほとんど使わない」のは4.2%と少数である。

◆人間関係や自分自身について

メールでのコミュニケーションが拡大するためか、高1生になると友だち関係も変わる。たとえば、「日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち」や「悩みごとを相談できる友だち」が増える。「悩みごとを相談できる友だち」が「2人以上」（「2～3人」「4～6人」「7～10人」「11～20人」「21人以上」の合計）いるのは、中3生73.3%→高1生81.5%

と8割を超える。その一方で、「グループの仲間同士で固まっていたい」といった凝集志向は、中3生50.3%→高1生44.1%と弱まる。

親との会話では、中学生で少なかった父親との会話が回復する傾向がある。「学校のできごとについて」（「よく話をする」＋「ときどき話をする」、中3生28.9%→高1生36.6%）をはじめとして、5項目中4項目で下げ止まり、増加に転じている。

◆学習について

平日の家庭学習時間については、高校受験が終わって学習しなくなってしまった生徒（「ほとんどしない」27.6%）と長時間学習する習慣が身についた生徒（「2時間以上」（「2時間くらい」～「3時間以上」）、26.0%）の両端が増加し、二極分化の傾向を示す。

学習目的が明確でなくなるためか、「勉強しようという気持ちがわからない」（「とてもそう」＋「まあそう」、中3生55.8%→高1生63.1%）が再び増加し、「受験を目標にして勉強する」（同73.7%→39.2%）、「資格試験や検定試験（英検、漢検など）を受けるための勉強をする」（同36.9%→27.3%）、「定期テストはしっかり準備をしてのぞむ」（同61.3%→45.9%）などは減少する。学習しない層をいかに学習に向かわせるかが課題であるが、学習動機では「自分がつきたい仕事につくのに必要だから」（「とてもそう」＋「まあそう」、中3生69.0%→高1生77.5%）という思いが強まる。

2. 高校2年生

学習時間の二極化の傾向は高1生から変わらず、ほとんど学習しない生徒も長時間学習する生徒も小・中学生と比べると多い。意識面では、大学受験ややりたい職業など、将来を見ずえて学習しようとする傾向が強まる。親との会話でも、将来や進路の話題が増える。携帯電話については、使い慣れてくるためか、依存的な使い方をする傾向が弱まる。

◆生活時間やメディア接触について

就寝時刻は、高1生からさらに少し遅くなり、午前0時以降も起きている生徒は72.3%、1時過ぎまで起きている生徒も29.3%と、対象学年を通じて最も多い。

テレビ視聴時間やテレビゲームをする時間は、中2生をピークに減り続ける傾向に変わりが、高1生からの減少はわずかである。

パソコンの活用は、インターネットでの情報検索が上位であるが、「ネットショッピングをする」が1割を超えるなど、多様な使い方をしている様子がうかがえる。携帯電話については、「友だちに送るメール」の回数が減少し、「携帯電話を使うのが楽しい」（「とてもそう」、高1生41.1%→高2生29.3%）、「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」（同49.0%→45.9%）、「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」（同31.0%→24.1%）などの肯定率が低下していて、依存的な傾向を弱めていることがわかる。

◆人間関係や自分自身について

両親との会話では、中3生から高1生にかけて減少した「将来や進路のことについて」が再び増加する。父親とは、高1生37.3%→高2生45.5%（「よく話をする」＋「ときどき話をする」）となって全学年を通じて最も高く、母親とは、59.5%→69.5%と10ポイント増加する。また、「社会のできごとやニュースについて」も、父親40.2%→46.8%、母親43.6%→49.9%となる。学年が上がるとと

もに、社会についての話題が増える。

友だち関係では、凝集志向がいつそう弱まり、「友だちといつも一緒にいたい」（「とてもそう」＋「まあそう」、高1生74.7%→高2生66.0%）、「グループの仲間同士で固まっていたい」（同44.1%→37.5%）などが減少する。異性関係をみると、つきあっている異性が「いる」17.6%、「以前はいたが今はいない」35.1%と、つきあった経験をもつ者が過半数を超える。

◆学習について

家庭学習時間については、学習する生徒としない生徒が二極化する傾向に変化はない。高2生の平日の平均学習時間はちょうど1時間で、小4生から12分しか増加していない。平均値は大きな変化はないが、学年が上がるにしたがって分散が大きくなっている。

意識面では再び「受験を目標にして勉強する」（「とてもそう」＋「まあそう」、高1生39.2%→高2生51.9%）が増加して、今度は大学受験を目指した学習がスタートする。学習動機では、「いい大学に入りたいから」（「とてもそう」＋「まあそう」、高1生61.5%→高2生64.5%）、「自分がつきたい仕事につくのに必要だから」（同77.5%→80.5%）が増加し、将来を見ずえて学習する傾向が強まる。ちなみに、将来なりたい職業があるかをたずねた設問で「ある」という回答した比率は、68.7%で、高2生が対象学年を通じて最も高かった。